

今日のトピック 米長期金利は一時3%に急接近 FRBの引き締め加速は織り込み、今後もみあいへ

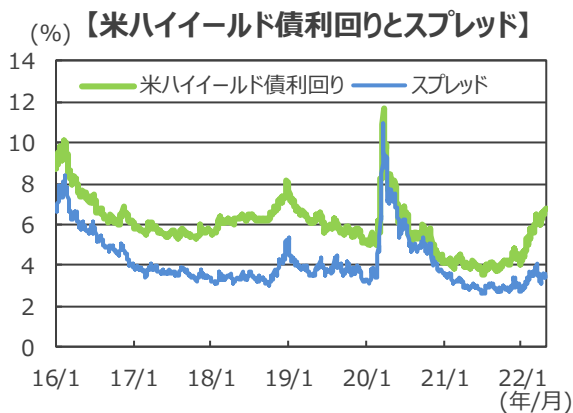
ポイント1 米長期金利は急上昇、一時3%に接近

- 米10年物国債利回り（長期金利）は今年に入り、米連邦準備制度理事会（FRB）の金融引き締め観測を背景に上昇基調にありましたが、ロシアのウクライナ侵攻に伴う資源価格高などを受けて、インフレ懸念が一段と高まり、3月以降上昇ペースが加速しました。
- 米長期金利は2月末の1.83%（昨年末は1.51%）から急上昇し、4月19日には2.93%と、2018年12月以来の高水準を付けました。パウエル議長やFRB高官がインフレ抑制のため金融引き締めを一段と前向きな姿勢を示したことで、市場では予想を上回るペースで利上げを見込む向きが増え、債券売りが強まりました。



ポイント2 米社債利回りも上昇、スプレッドも拡大

- 米ハイールド債利回りも大きく上昇しました。米国の金融引き締め観測で国債利回りが上昇したほか、ウクライナに侵攻したロシアへの経済制裁を嫌気して、国債金利に上乗せする金利（スプレッド）は昨年末の2.83%から3.65%へ拡大しました（4月25日時点）。ただし、スプレッド水準を過去と比較すると、業績悪化は多少反映された状態にとどまっていると考えられます。



今後の展開 長期金利の上昇は一服し、もみあいへ

- 弊社は、FRBがインフレの抑制を優先して政策金利のフェデラルファンド（FF）金利を、景気を冷やしも熱しもしない中立金利水準（2.375%）まで急ピッチで引き上げ、その後は景気にも配慮しながら利上げペースを調整していくとみています。米国のインフレについては、当面急ピッチの利上げが行われることで、時間の経過とともにピークアウトに向かうと想定しています。4月25日時点のFF金利先物市場が織り込む利上げ見通しは年内の中立金利超えを示していることから、米長期金利は既に大幅利上げを織り込んだ水準と考えられ、今後上昇は一服し、もみ合う展開を予想しています。

ここもチェック! 2022年4月21日 米経済は予想される大幅な連続利上げに耐えられるか
2022年4月13日 3月の米CPIは40年ぶりの高い上昇率

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。